

2019年度 環境経営レポート

(対象期間:2019年1月～2019年12月)

株式会社 ジャバラ



発行日: 2020年 2月 10日

改定日: 2020年 4月 3日

□目次

環境経営方針	1
環境理念	
活動方針	
1. 組織の概要	2
(1) 名称及び代表者名	
(2) 所在地	
(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先	
(4) 事業内容	
(5) 事業の規模	
(6) 事業年度	
(7) 会社沿革	
2. エコアクション21認証・登録範囲	4
3. 環境経営システム組織	5
4. 主な環境負荷の実績	6
5. 環境経営目標	7
全社目標	
(1) たつの工場	
(2) 本社・大阪営業所	
(3) 東京営業所	
(4) 名古屋営業所	
6. 主要な環境経営計画の内容及び取組結果の評価	9
(1) たつの工場	
(2) 本社・大阪営業所	
(3) 東京営業所	
(4) 名古屋営業所	
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無	13
8. 代表者による全体の評価と見直し・指示	14
全体の評価と抱負	
見直し・指示	
9. 活動状況	15
(1) 環境貢献・環境配慮製品	
(2) 省エネ・省資源活動	
(3) 廃棄物の分別・リサイクル活動	
(4) 防火訓練・清掃活動	

株式会社ジャバラ 環境経営方針

<環境理念>

株式会社ジャバラは、より良い未来環境の実現に向けて、企業市民としての良識をもって、環境改善に貢献するジャバラ製品を創出するとともに、事業活動を通じて環境負荷の低減に取り組みます。

<活動方針>

1. 次の事項について、環境経営目標・環境経営計画を定め、定期的に見直しを行い、継続的改善に努めます。
 - 1) 資源（電力・燃料・水など）消費量の削減
 - 2) 廃棄物の3R（減量、再使用、再生利用）
 - 3) 有害物質の低減
 - 4) グリーン購入（環境負荷低減型資材の購入）
 - 5) 環境に配慮した製品の開発と販売促進
2. 環境関連法令と諸規則を順守します。

制定日：2010年4月1日

改定日：2018年4月1日

代表取締役 藤中 理香



1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 ジャバラ

代表取締役社長 藤中 理香



(2) 所在地

本社・大阪営業所 〒541-0053 大阪市中央区本町 3-5-7 (御堂筋本町ビル)

たつの工場 〒679-4016 兵庫県たつの市揖西町南山 3-8

J A B A F L E X

東京営業所 〒110-0016 東京都台東区台東 4-5-1 (タマタビル)

名古屋営業所 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 2-18-22 (三博ビル)

※エコアクション21対象範囲は、上記4サイト全てとする。

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境経営総括責任者 代表取締役社長 藤中 理香

環境管理責任者 製造部長 山岡 達也

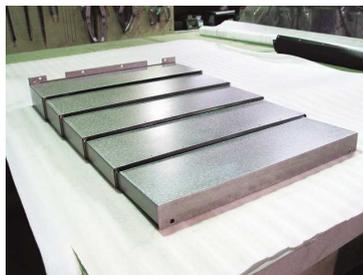
Tel : 0791-64-8200 Fax : 0791-64-8201 E-Mail : yamaoka@jabara.co.jp

(4) 事業内容

輸送機器用、工作機械用及び産業機器用のジャバラ製品の設計・製造



キャノピーフード



テレスコカバー



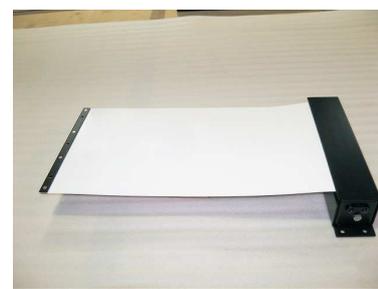
スクリーカバー



免震継手



折りジャバラ



巻取りカバー

(5) 事業の規模

製品出荷額 2,969 百万円 (2019 年度実績)

	本社・大阪営業所	たつの工場	東京営業所	名古屋営業所
従業員	9 名	123 名	6 名	4 名
延べ床面積	212.04 m ²	5,805.75m ²	118.54 m ²	58.57 m ²
敷地面積		11,993m ²		

(6) 事業年度 2019 年 1 月～12 月

(7) 会社沿革

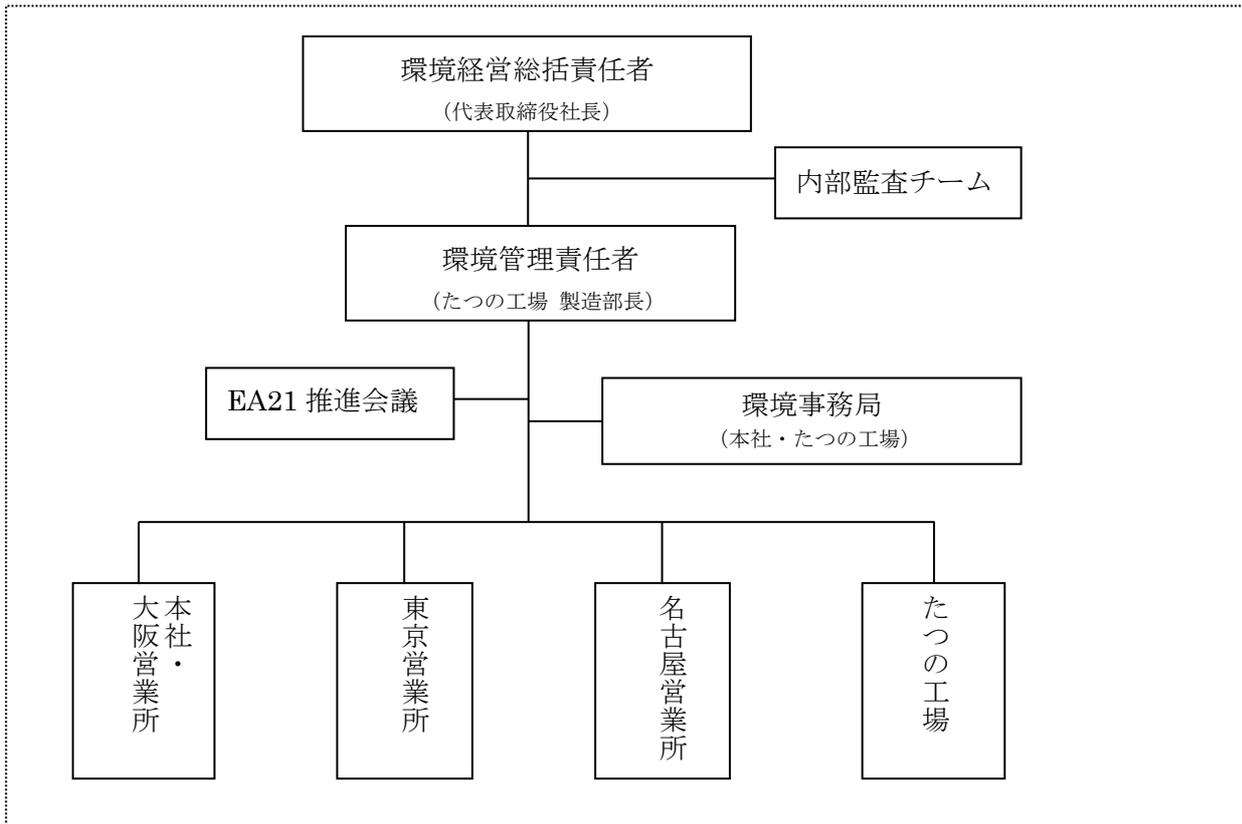
- 昭和 36 年 工業用ジャバラメーカーとして資本金 300 万円にて創立
三菱重工(株)京都精機製作所他に工業用ジャバラ製品の納入開始
- 昭和 39 年 東京営業所開設
- 昭和 40 年 名古屋営業所開設
- 昭和 43 年 国有鉄道 (現 JR 各社) に鉄道車両用タワミ風道を納入開始
- 昭和 46 年 龍野工場開設
- 昭和 48 年 フェリーバース用ジャバラを開発、東京湾に納入開始
- 昭和 53 年 橋梁配水管継手ドレシーが建設省 (現国交省) の基本設計図書に採用される
- 昭和 56 年 建設省実験プロジェクトとしてダム水質浄化システムを開発、緑川ダムに試作機納入
- 昭和 59 年 龍野工場 (製造,技術) 新社屋完成
一庫ダムに水質浄化システム深層曝気装置納入。以降布目ダム他多数に納入
- 昭和 60 年 資本金 2,000 万円に増資
JR 各社他に鉄道車両用連結ホロ納入開始
空港用キャノピー (特許第 1688197 号) を開発、主要空港に納入開始
ウェルダ加工ジャバラの生産開始
- 昭和 61 年 本四架橋向けにローラシュー用ステンレス製テレスコカバー、ゴム製樋を納入開始
- 昭和 63 年 倉庫レスパレットカバー (特許第 1881353 号) を開発、製鉄所に納入開始
- 平成元年 関西新空港向け連絡橋用、ゴム製樋・支承カバー納入開始
電動開閉式大型倉庫レスパレットカバーを開発、製鉄所に納入開始
- 平成 2 年 テレスコピックカバー生産設備更新、工作機械向けジャバラの本格増産体制に入る
- 平成 6 年 ダラス向け L R T 用連結ホロ納入開始
関西新空港ターミナルビル北工区・南工区縦樋用継手及びキャニオン EXP 納入
- 平成 10 年 ニュージャー向け L R T 用連結ホロ納入開始
- 平成 11 年 さいたまスーパーアリーナ向け可動式出入り口用ホロ及び
カーテンウォール貫通部シール用ジャバラ (東西) を納入
- 平成 13 年 JR 東海次期新幹線 (N700 系) 用「全周ホロ」の開発に着手
東京工業大学 広瀬研究室に人命救助用ヘビ型ロボット用間接カバー試作納入開始
- 平成 14 年 液晶テレビ工場向けクリーンルーム用クレーンワイヤーカバー納入開始
- 平成 15 年 台湾新幹線用タワミ風道納入
小里川ダムに放流口水質分離システム納入
- 平成 16 年 国土交通省認定の免震用ジャバラを開発、八尾市民病院他に納入開始
- 平成 17 年 中国鉄道高速列車 CRH2 型用タワミ風道納入
- 平成 18 年 マニラ向け L R T 用連結ホロ納入開始
ISO 9001 認証取得
- 平成 19 年 JR 東海 N700 系用「全周ホロ」の生産開始
- 平成 22 年 低摺動抵抗テレスコピックカバー開発
エコアクション 21 認証取得
SUS 薄板巻取り発売開始
- 平成 23 年 若松工場長 (当時) が N700 系用全周ホロの開発功績により兵庫県発明賞を受賞

平成 24 年 XY軸テレスコカバー開発
平成 25 年 四面巻取りカバー開発
平成 26 年 工場移転
平成 28 年 2 月 東京営業所移転
12 月 本社・大阪営業所移転
平成 30 年 11 月 たつの工場 B 棟完成
平成 31 年 4 月 伸縮式誘導通路を中部空港に納入開始

2. エコアクション 2 1 認証・登録範囲

認証・登録事業者 株式会社ジャバラ
大阪府大阪市中央区本町 3-5-7
対象事業活動 運送機器用、工作機械用及び産業機器用の
ジャバラ製品の設計・製造
対象事業所 本社・大阪営業所、たつの工場、東京営業所
名古屋営業所

3. 環境経営システム組織



	役割・責任・権限
環境経営総括責任者 代表取締役社長 藤中 理香	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの運営に必要な、人材、設備、その他リソースの配置・提供 環境管理責任者の任命 経営の課題とチャンスの明確化 環境経営方針の策定・見直し及び全従業員への周知 環境経営目標・環境経営計画の承認 外部監査・内部監査計画の承認 全体の評価と見直し（代表者による見直し記録） 環境経営レポートの承認
環境管理責任者 たつの工場 製造部長 山岡 達也	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 「環境関連法規等取りまとめ表」の承認 外部監査・内部監査の計画の確認 環境経営計画書・実績書の承認 環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 （代表者による見直し記録の「見直しに必要な情報」欄の記載） 環境経営レポートの確認
環境事務局 本社総務部 課長 山口 恵美 本社総務部 藤本 小季	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐、EA21推進会議の事務局 環境関連の外部コミュニケーションの窓口 外部監査・内部監査の計画・推進 環境関連法規順守状況の確認 「環境経営目標」・「環境経営計画書」の取りまとめと実績集計 環境への負荷の自己チェック表の取りまとめ 環境経営レポートの取りまとめ、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門責任者 各営業所責任者	<ul style="list-style-type: none"> 自部門の環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 自部門の環境経営システムの実施 自部門への環境経営方針の周知 自部門の従業員に対する教育訓練の実施 自部門に関連する環境経営目標及び環境経営計画の実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応手順書作成、テスト・訓練・記録 自部門の問題点の発見、是正、予防処置
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営方針の理解、環境への取組の重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

4. 主な環境負荷の実績

(2017年～2019年 実績)

環境負荷項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度
1) 二酸化炭素総排出量全社合計	kg-CO ₂	466,862	426,914	411,555
・電力による排出量全社合計	kg-CO ₂	422,590	357,823	347,015
	kWh	857,619	726,371	704,415
たつの工場	kg-CO ₂	409,965	343,185	334,657
本社・大阪営業所	kg-CO ₂	7,062	6,683	4,771
東京営業所	kg-CO ₂	5,010	4,827	4,237
名古屋営業所	kg-CO ₂	553	3,128	3,350
・化石燃料による排出量全社合計	kg-CO ₂	44,272	69,091	64,540
	ℓ	18,522	28,198	26,233
たつの工場 (ガソリン)	kg-CO ₂	8,350	11,692	10,103
(軽油)	kg-CO ₂	4,722	30,156	34,105
(灯油)	kg-CO ₂	10,906	8,057	2,155
本社・大阪営業所	kg-CO ₂	13,722	12,739	12,221
東京営業所	kg-CO ₂	1,303	1,537	957
名古屋営業所	kg-CO ₂	5,269	4,910	4,999
2) 産業廃棄物排出量合計				
たつの工場	kg	75,460	58,790	64,630
3) 一般廃棄物排出量全社合計	kg	約 1,461	約 1,342	約 1,267
たつの工場	kg	933	894	858
本社・大阪営業所	kg	約 256.4	約 220.4	約 165.1
東京営業所	kg	約 217.5	約 173.6	約 157.8
名古屋営業所	kg	約 54.3	約 54.3	約 85.7
4) 水使用量の削減	m ³			
たつの工場		1,300	1,722	1,462
5) 化学物質使用量(トルエン)	kg			
たつの工場		1,906	3,416	3,694

注) 実績購入電力の二酸化炭素排出係数は、平成 29 年 12 月環境省・経産省公表の調整後排出係数を使用 (関西電力(株)0.493kg-CO₂/kWh、東京電力エナジーパートナー(株)0.474kg-CO₂/kWh、中部電力(株) 0.480kg-CO₂/kWh)

各営業所では一般廃棄物発生量のほとんどがコピー紙の為、コピー用紙の購入量実績から推定。(A4 サイズ 500 枚にて約 2.1kg に換算) 排水量は工場のみ計測可。営業所は家賃に含まれている。

5. 環境経営目標

全社目標

環境経営目標項目	2019年度	2020年度	2021年度
二酸化炭素排出量合計	479,203 kg-CO ₂	379,109 kg-CO ₂	375,167 kg-CO ₂
電力による排出量	393,922 kg-CO ₂ 823,393 kWh	312,489 kg-CO ₂ 634,433 kWh	309,234 kg-CO ₂ 627,825 kWh
化石燃料による排出量	85,281 kg-CO ₂ 34,699 ℓ	66,620 kg-CO ₂ 27,222 ℓ	65,933 kg-CO ₂ 26,942 ℓ
一般廃棄物排出量	918 kg	898 kg	879 kg

※ 目標購入電力の二酸化炭素排出係数は、平成 29 年 12 月環境省・経産省公表の調整後排出係数を使用
(関西電力(株)0.493kg-CO₂/kWh、東京電力エナジーパートナー(株)0.474kg-CO₂/kWh、中部電力(株)
0.480kg-CO₂/kWh)

※ 営業所化石燃料は入替え車種の燃費(プリウス→フィールダーで 8.5%低下)低下を台数分目標値に加算
(維持コストが高いため削減するため、また、積載量を増やすために入替)

※ 廃コピー紙はアスクルリサイクルペーパー 四六判換算(四六判紙 1,000 枚=57.6 kg)より A4 紙 1 枚=
4.2 g として計算

※ 2019 年度のみ該当年度の生産高比を目標値に加算((1) たつの工場 の注釈参照)

(1) たつの工場

環境経営目標項目	単位	2015 年度 実績(基準値)	2019 年度 目標	2020 年度 目標	2021 年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	kg-CO ₂ 310,101 (629,008kWh)	378,976 (97%+生産高) (792,489kWh)	297,697 (96%) (603,848kWh)	294,596(95%) (597,558kWh)
	ガソリン	kg-CO ₂ 14,506 (6,248ℓ)	19,343(97%+生産高) (8,332ℓ)	13,926 (96%) (5,998ℓ)	13,781(95%) (5,936ℓ)
	軽油	kg-CO ₂ 32,622 (12,614ℓ)	43,510 (97%+生産高) (16,824ℓ)	31,317 (96%) (12,109ℓ)	30,991(95%) (11,983ℓ)
	灯油	kg-CO ₂ 3,339 (1,342ℓ)	4,075 (97%+生産高) (1,638ℓ)	3,205 (96%) (1,288ℓ)	3,172(95%) (1,275ℓ)
産業廃棄物排出量の削減	kg	57,966	55,647 (96%)	54,488 (94%)	53,329 (92%)
一般廃棄物排出量の削減	kg	495	475 (96%)	465 (94%)	455 (92%)
総排水量の削減	m ³	1,386	1,344 (97%)	1,331 (96%)	1,317 (95%)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上	点	4,764 (2019年1月)	改善 (7,200 満点)	改善 (7,200 満点)	改善 (7,200 満点)
化学物質(トルエン)の 使用量の削減	kg	2,752	2,587 (94%)	2,532 (92%)	2,477 (90%)
環境配慮型・環境貢献型 製品の開発	件	12 (毎月 1 件)	12	12	12

※ 各年度目標欄のカッコ内パーセンテージは、基準値に対する比率を示す

※ 2014 年 8 月に工場移転。2015 年を基準年度とする

※ 売電の相殺は含んでいない

※ 自社便導入に伴い、軽油の基準値は 2015 年度実績値に 2018 年度の増加量平均(4 月～12 月)を加算

※ たつの工場の実績値は生産に大きく左右され、また受注生産のため予想も難しいことから、結果の評価
に用いる目標値については生産高比で補正している。その際の計算式は下記の通りとする

電力：売上高千円増に対し 0.232kWh を目標値に加算

2019 年度目標 = (2015 年度実績(基準値) + ((2019 年度生産高 - 2015 年度生産高) ÷ 1000
× 0.232)) × 97%

化石燃料：2019 年度目標 = 2015 年度実績(基準値) × 97% × (2019 年度生産高 ÷ 2015 年度生産高)

□環境経営目標（続き）

（2）本社・大阪営業所

環境経営目標項目		単位	2017年度 実績(基準値)	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	kg-CO ₂	7,062 (14,324kWh)	6,850 (97%) (13,894kWh)	6,779 (96%) (13,751kWh)	6,709 (95%) (13,608kWh)
	化石燃料	kg-CO ₂	11,444 (4,929ℓ)	11,444 (100%) (4,929ℓ)	11,330 (99%) (4,880ℓ)	11,215 (98%) (4,830ℓ)
コピー用紙消費量の削減		枚	55,360 (232.5 kg)	52,038 (94%) (218.6 kg)	50,931 (92%) (213.9 kg)	49,824 (90%) (209.3 kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上		点	912 (2019年1月)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)
環境配慮型・環境貢献型製品 開発に関する情報の収集		件	年間2件以上	一般営業部門 2件/年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 化石燃料：入替え車種の燃費（プリウス→フィールダーで8.5%低下）低下を台数分目標値に加算
2018年度 4台中1台、6月に2台
（維持コストが高いため削減するため、また、積載量を増やすために入替）

※ 2016年12月移転。2017年を基準年度とする

（3）東京営業所

環境経営目標項目		単位	2016年度 実績(基準値)	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	kg-CO ₂	5,610 (11,836kWh)	5,442 (97%) (11,481kWh)	5,386 (96%) (11,362kWh)	5,330 (95%) (11,244kWh)
	化石燃料	kg-CO ₂	1,489 (641ℓ)	1,429 (96%) (615ℓ)	1,415 (95%) (609ℓ)	1,400 (94%) (603ℓ)
コピー用紙消費量の削減		枚	44,030 (184.9 kg)	41,388 (94%) (173.8 kg)	40,508 (92%) (170.1 kg)	39,627 (90%) (166.4 kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上		点	900 (2019年1月)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)
環境配慮型・環境貢献型製品 開発に関する情報の収集		件	年間2件以上	一般営業部門 2件/年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 2016年2月移転。2016年を基準年度とする

（4）名古屋営業所

環境経営目標項目		単位	2017年度 実績(基準値)	2019年度 目標	2020年度 目標	2021年度 目標
二酸化炭素 排出量の削減	電力	kg-CO ₂	2,736 (5,700kWh)	2,654 (97%) (5,529kWh)	2,627 (96%) (5,472kWh)	2,599 (95%) (5,415kWh)
	化石燃料	kg-CO ₂	5,269 (2,270ℓ)	5,480 (104%) (2,361ℓ)	5,427 (103%) (2,338ℓ)	5,374 (102%) (2,315ℓ)
コピー用紙消費量の削減		枚	12,500 (52.5 kg)	12,000 (96%) (50.4 kg)	11,750 (94%) (49.4 kg)	11,500 (92%) (48.3 kg)
省エネ・省資源チェック 評価点の向上		点	1,152 (2019年1月)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)	改善 (1,200 満点)
環境配慮型・環境貢献型製品 開発に関する情報の収集		件	年間2件以上	一般営業部門・特需営業部門各2件/年以上 マネジメントレビューにて発表		

※ 化石燃料：入替え車種の燃費（プリウス→フィールダーで8.5%低下）低下を台数分目標値に加算
2018年度2台中2台

（維持コストが高いため削減するため、また、積載量を増やすために入替）

※ 2015年10月電力請求締め日変更。2016年は調整値使用のため2017年を基準年度とする

※ コピー紙：再生紙利用基準変更のため、2018年を基準年度とする

6. 主要な環境経営計画の内容及び取組結果の評価

期間（2019年1月～12月）12ヶ月間の目標とその実績についての評価

（1） たつの工場

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 未達項目の次年度の活動計画	
電力の二酸化炭素排出量削減 ・昼休憩突入5分以内の消灯 ・空調の適正使用 ・空調効率の改善 ・節電意識の持続	基準値	310,101	(kg-CO ₂)	○：目標達成 (基準 269,008 / 実績 678,818 kWh) ・使用していない場所の消灯	
	目標	378,976	122%		
	実績	334,657	108%		
	達成度	112%			
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 ・エコドライブと燃費管理の継続 ・灯油の使用量削減を最重点課題とする ・灯油の削減目標を2016年の10%とする ・7つのエリアに分け実態を把握 ・各グループの使用ルールを決め別表にて詳細を記録	ガソリン	基準値	14,506	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 6,248 / 実績 4,351 ㍊)
		目標	19,343	133%	
		実績	10,103	70%	
	軽油	基準値	32,622	(kg-CO ₂)	○：目標達成 (基準 12,614 / 実績 13,187 ㍊)
		目標	43,510	133%	
		実績	34,105	105%	
	灯油	基準値	3,339	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 1,342 / 実績 866 ㍊) ・灯油ストーブ使用禁止
		目標	4,075	122%	
		実績	2,155	65%	
産業廃棄物排出量の削減 ・分別ルールの徹底 ・分別によるリサイクル促進 ・原材料の歩留向上	基準値	57,966	(kg)	×：目標未達成 ・廃棄ルールの徹底 ・主材料の歩留低減 ・リサイクルの徹底	
	目標	55,647	96%		
	実績	64,630	111%		
	達成度	84%			
一般廃棄物排出量の削減 ・分別ルールの徹底 ・発生量の秤量の確実な実施 ・廃棄物抑制意識の高揚 ・コピー紙の節約	基準値	495	(kg)	×：目標未達成 ・定期的なパトロール(1回/月)を実施し、ルールが守られているかを監視する ・分別ルールを徹底させるため、ゴミ箱により分かりやすい表示をし、注意喚起を促す	
	目標	475	96%		
	実績	858	173%		
	達成度	19%			
水使用量の削減 ・節水ポスターによる意識付け ・水道蛇口の点検と修理 ・水使用量のグラフ化と見える化	基準値	1,386	(m ³)	×：目標未達成 ・節水を常に意識できるよう、数か月毎に張り紙を変更したり、朝礼等で呼びかけたりする	
	目標	1,344	97%		
	実績	1,462	105%		
	達成度	91%			
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・漏水点検の取組み周知 ・消灯時間設定による社員の意識向上 ・エアリー漏れのチェック ・照明の間引きと昼休みの消灯 ・OA機器使用後のリセットを呼びかける掲示 ・運転時の注意事項の定期的な確認と呼びかけ ・空調機の定期的なメンテナンス	基準値	4,764	(点)	○：目標達成 ・会議資料のペーパーレス化 ・ゴミの分別の徹底 ・接着剤、溶剤等を無駄なく使用する	
	目標	4,776	改善		
	実績	5,250	110%		
	達成度	110%			

化学物質(トルエン)の使用量削減 ・接着剤から両面テープへの切替え ・脱脂工程を精査して、トルエンからアルコールへ変更可能な工程を抽出する	基準値	2,752	(kg)	×：目標未達成 ・代替可能な溶剤へ変更する。 脱脂・再活性などP R T R対応(非含有)シンナーへ変更可能なものから随時変更する
	目標	2,587	94%	
	実績	3,694	134%	
	達成度	57%		
環境配慮型・環境貢献型製品開発 ・設計の環境改良 ・製作(作業)しやすい設計に改良 ・工程内検査のしやすい設計 ・過剰品質の見直し ・環境に配慮した治具の製作/改良等	基準値	12	(件)	○：目標達成 ・設計の製品実現を通して環境貢献の方へ軸足を置くこと
	目標	12	100%	
	実績	13	108%	
	達成度	108%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入
 ※今後もこの取組みを継続していきます

(2) 本社・大阪営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 未達項目の次年度の活動計画
	基準値	実績	達成度	
電力の二酸化炭素排出量削減 ・営業不在時の消灯の徹底 ・残業、土日出勤を極力なくし時間外電力使用を減らす ・クールビズ、ウォームビズの実施 ・LED電球へ交換	基準値	7,062	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 14,324 / 実績 9,678 kWh)
	目標	6,850	97%	
	実績	4,771	68%	
	達成度	130%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 ・公共機関ディ(月2回)設定 ・エコドライブの励行 ・急発進、急加速厳禁 ・エコ空調の励行	基準値	11,444	(kg-CO ₂)	×：目標未達成 (基準 4,929 / 実績 5,264 l) ・車無使用日(月2回)設定 ・遠方移動時は電車+レンタカー移動
	目標	11,444	100%	
	実績	12,221	107%	
	達成度	93%		
コピー用紙消費量の削減 ・受注原票の削減 →レポートで簡易処理できるものについては簡素化する ・期中での使用量の確認	基準値	55,360	(枚)	◎：次年度目標以上達成 ・会議関係資料の削減 ・送受信のメール化。FAX削減
	目標	52,038	94%	
	実績	37,645	68%	
	達成度	128%		
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・省エネルギー対策 ・省資源・廃棄物の抑制 ・社用車の適正使用	基準値	912	(点)	○：目標達成
	目標	924	改善	
	実績	987	108%	
	達成度	107%		
環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集 ・顧客情報収集 ・市場情報収集 ・新製品・新素材開発	基準値	2件以上	(件)	○：目標達成
	目標	2件以上	100%	
	実績	2件以上	100%	
	達成度	100%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入
 ※今後もこの取組みを継続していきます

(3) 東京営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 未達項目の次年度の活動計画
	基準値	実績		
電力の二酸化炭素排出量削減 ・適切な設定温度 ・クール&ウォームビズ実施 ・昼休み、不在時の消灯 ・蛍光灯の間引き	基準値	5,610	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 11,836 / 実績 8,939 kWh)
	目標	5,442	97%	
	実績	4,237	76%	
	達成度	122%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 ・時間に余裕を持った行動 →危険運転の抑止、事故防止 ・無駄なアイドリングはしない →駐停車時はエンジンストップ	基準値	1,489	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 641 / 実績 516 l) ・長距離移動はエコカー、短距離移動はカーシェアを使用
	目標	1,429	96%	
	実績	1,199	81%	
	達成度	116%		
コピー用紙消費量の削減 ・不要紙の裏紙活用 ・集約・両面印刷の実行 ・書類のPDF保存実行	基準値	44,030	(枚)	◎：次年度目標以上達成
	目標	41,388	94%	
	実績	34,850	79%	
	達成度	116%		
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・省エネルギー対策意識向上 ・省資源・廃棄物の抑制 ・カーシェア&レンタカーの適正使用 ・リサイクル、リデュースの意識付け	基準値	900	(点)	○：目標達成
	目標	912	改善	
	実績	942	105%	
	達成度	103%		
環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集 ・顧客からの情報収集 ・市場情報の収集 ・新構造品の開発(高寿命化) 試験装置導入	基準値	2件以上	(件)	○：目標達成
	目標	2件以上	100%	
	実績	2件以上	100%	
	達成度	100%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入

※今後もこの取組みを継続していきます

(4) 名古屋営業所

環境経営計画の取組内容	達成状況 (1月～12月)		(単位) 基準年度比	目標に対する実績評価と 未達項目の次年度の活動計画
	基準値	実績		
電力の二酸化炭素排出量削減 ・ 不必要時の消灯・減灯の励行 ・ 空調温度の適温化 (設定温度 夏 28℃ 冬 20℃) ・ クールビズ、ウォームビズの実施 ・ 不要な待機電力の削減	基準値	2,736	(kg-CO ₂)	×：目標未達成 (基準 5,700 / 実績 6,980 kWh) ・ 10時までに営業所を出て午前に1件以上顧客を回り、20時までに退出する (タイムカード打刻後の残業禁止)
	目標	2,654	97%	
	実績	3,350	122%	
	達成度	74%		
化石燃料の二酸化炭素排出量削減 ・ エコドライブの励行 ・ 車両点検整備の徹底 ・ 効率的な運転の励行 ・ 燃費の管理・改善	基準値	5,269	(kg-CO ₂)	◎：次年度目標以上達成 (基準 2,270 / 実績 2,153 l) ・ 時間に余裕を持って行動する ・ 不要な荷物を下ろす
	目標	5,480	104%	
	実績	4,999	95%	
	達成度	109%		
コピー用紙消費量の削減 ・ 両面コピーの徹底 ・ 裏紙の活用 ・ 節紙の啓蒙(シール表示) ・ 会議資料の節紙 (PC上での資料確認)	基準値	12,500	(枚)	×：目標未達成 ・ 両面コピーの更なる徹底 ・ 書類のPDF化
	目標	12,000	96%	
	実績	19,500	156%	
	達成度	38%		
省エネ・省資源チェック評価点向上 ・ 週1回 定時退社の徹底 ・ 省資源、廃棄物の抑制 ・ 社用車(レンタカー含む) 適正使用 ・ 月次実績を見える化し、エコ活動への意識向上を図る	基準値	1,152	(点)	○：目標達成 ・ 定時退社の徹底
	目標	1,164	改善	
	実績	1,167	101%	
	達成度	100%		
環境配慮型・環境貢献型製品開発に関する情報の収集 ・ 顧客の省資源活動に貢献する商品のPR展開を図る ・ 耐久性向上が見込める商品のPR展開を図る	基準値	2件以上	(件)	○：目標達成 ・ 地球環境の保全等に貢献する商品開発(材料)に繋がる情報収集および商品化への取組みを図る(技術部、製造部、品証部との連携)
	目標	各2件以上	100%	
	実績	各2件以上	100%	
	達成度	100%		

注) ○：目標達成 ◎：次年度目標以上達成 ×：未達成 として記入

※今後もこの取組みを継続していきます

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守すべき主な要求事項	評価
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（廃プラ、木屑、金属屑等）の適正処理	遵守
騒音規制法	空気圧縮機、送風機、液圧プレス、機械プレス等特定施設の届出、	遵守
振動規制法	空気圧縮機、送風機、液圧プレス、機械プレス等特定施設の届出	遵守
P R T R 法	特定化学物質（トルエン等）排出量の届出	遵守
消防法	危険物（有機溶剤）の適正管理、火災報知機・消火栓の定期点検	遵守
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正な管理 定期点検及び記録の保管（業務用空調機等）	遵守
大気汚染防止法	VOC 規制（乾燥の用に供する施設）の遵守	遵守
悪臭防止法	トルエン、酢酸エチル等の適正管理	遵守

2019年12月31日現在、昨年に引き続き環境関連法規制等の遵守状況を確認した結果、遵守されていることを確認しました。なお、本年、環境に関する関連当局及び隣接住民からの指導及び訴訟、苦情等はありませんでした。

8. 代表者による全体の評価と見直し・指示

全体の評価と抱負

QCD に Safety と Environment が加わり、QCDSE といわれるようになった。

製品および工場や作業現場に対する安全と環境への配慮と対策がなされているかが問われている。

量産製品用接着工程の自動化は2年の調整を経てようやく稼働に持ち込むことができた。これにより作業環境の改善が見込める。

2020年には、技術・品証・製造からの各専門メンバによる、有機溶剤フリー（多品種製品の接着工程ロボット化または接着の脱有機溶剤化による）プロジェクトが始動する。脱有機溶剤化は、UV接着の検討に引き続き、難問ではあるが当社が克服すべき課題であり、コア技術にかかわるところでもあり、結果を出すまで継続する所存である。

10年目に入ったエコアクション21の活動は、参加メンバを広げるとともに各担当をローテーションすることによって、環境活動への理解と意識が向上した。

営業からの環境配慮型・環境貢献型製品の開発については、長寿命化一辺倒であったところに、ここに来て視野の広がりが見え、5年後の製品ラインナップ会議との連動で、さらなる新展開が期待できる。

奇しくも新型コロナウイルスとともに明けた2020年。当社は、BCP体制の確立を計画している。BCPによってQCDSEをどう担保するか、当社の実力が試される。

見直し・指示

	項目	見直しの有無	指示
1	環境経営方針	無	
2	環境経営目標	無	
3	環境活動計画	有	たつの工場の「環境配慮型・環境貢献型製品の開発」について、専ら製品実現（製品の設計・開発）を通して環境に貢献する取り組み内容に変更すること。 名古屋営業所の「電力の二酸化炭素排出量削減」の環境経営計画の取組内容の先頭に、「・営業活動開始時刻繰り上げで残業削減」を追加すること。
4	実施体制	無	

2020年2月18日 代表取締役 藤中 理香

9. 活動状況

(1) 環境貢献・環境配慮製品

①新幹線 全周ホロ	②塩ビ→オレフィン製品	③耐久性向上シート製品
		

(2) 省エネ・省資源活動

①太陽光発電設置	② エコカー導入	③工場内蛍光灯⇒LED
		

(3) 廃棄物の分別・リサイクル活動

①産業廃棄物置場	②ダンボール紙分別置場	③産業廃リサイクル置場
		

(4) 防火訓練・清掃活動

①防火訓練 避難訓練	②防火訓練 消火訓練	③工場外周 清掃活動
		